

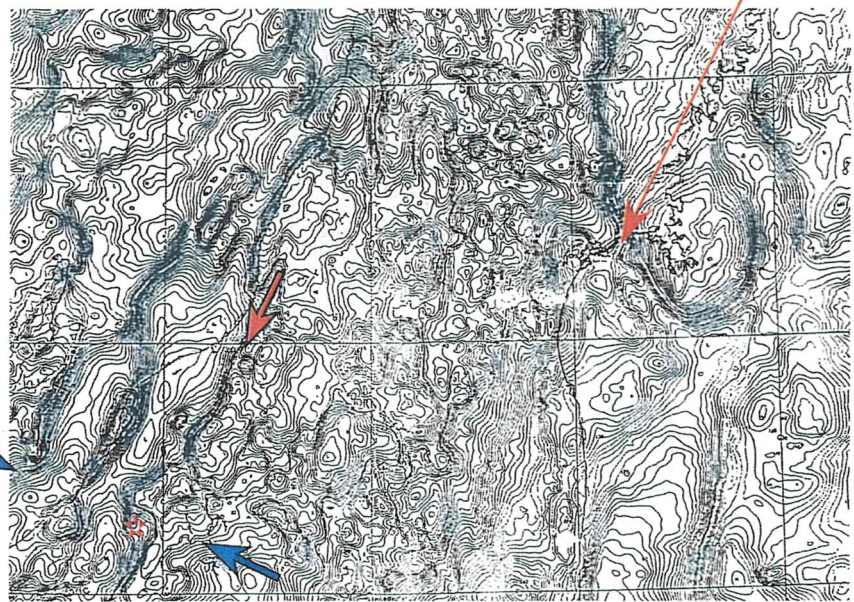
中越地震震源域の地殻・地質構造

宮城県北部地震

日本海拡大時に背リフトとして形成された新潟堆積盆地の東縁を限る新発田-小出線と、リフト内のtear faultとして形成された柏崎-銚子線の交差部に位置する。

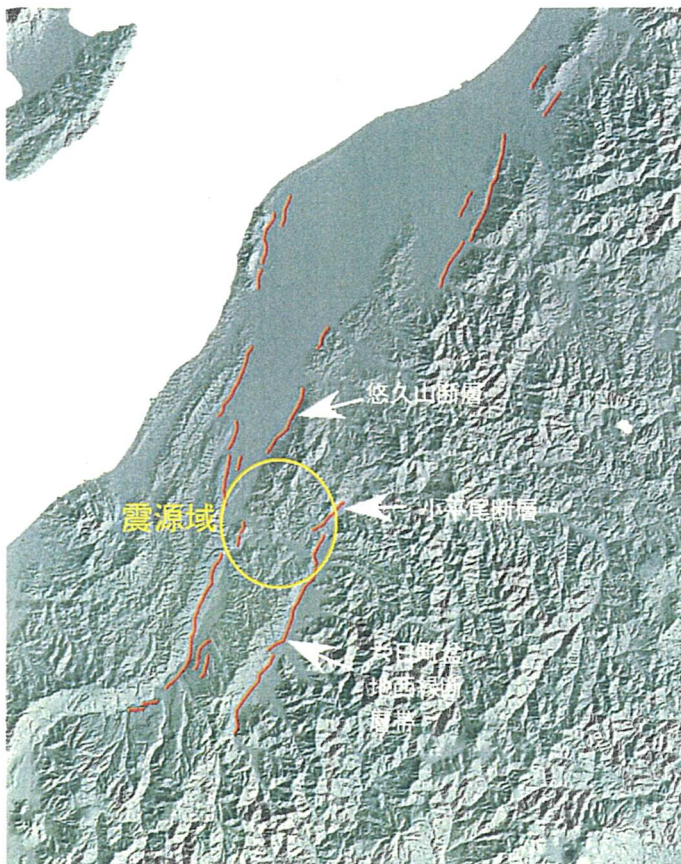
柏崎-銚子線

(中新世の横ずれ断層:新潟盆地の堆積相、北越区と南越区の境界)



ブーゲ異常図 (地質調査所, 1992)

新発田-小出線 (新潟堆積盆地の東縁を限る中新世の正断層)



震源域周辺には、新発田-小出線の再活動である六日町盆地西縁断層帯、それからステップ・オーバーして分布する小平尾断層が、魚沼丘陵の東縁に分布 (西側隆起)。魚沼丘陵の北西縁には、東側隆起の悠久山断層が分布 (断層の名称は、都市圏活断層図による)。震源域中南部で西傾斜の断層が、北部では東傾斜の断層が推定される。

震源域周辺の活断層 (池田ほか編、2002および都市圏活断層図による)